科目名称	母性看護学方法論Ⅱ （周産期にある人と家族への看護）	学年学期	単位数	時間数
		2 学年後期	1	30
担当教員	城内　真理	授業に関わる実務経験	■ 有 （ 助産師 ） □ 無	

【1】 授業概要

分娩期・産褥期にある母性と新生児の特徴について理解し、その看護ができる基礎的知識・技術を習得する。

【2】 学習目標

1. 分娩期・産褥期にある母性の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。
2. 分娩期が正常に経過し、産婦が安楽で主体的なお産ができるための分娩期の看護について説明できる。
3. 産褥期が正常に経過し、褥婦が母親役割を獲得できるための産褥期の看護について説明できる。
4. ハイリスク因子を持つ母児に対する看護実践に必要な基礎的知識について説明できる。
5. 新生児が子宮外生活に適応できるための看護について説明できる。
6. 新生児看護に必要な基礎的看護技術を、安全と愛護を意識して行うことができる。
7. 分娩期・産褥期・新生児期の看護過程を展開し、対象に必要な看護を計画できる。

【3】 第 2 看護学科ディプロマポリシーとの関連性

■ 1. 生活者としての人間の理解
■ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
■ 5. 多職種との連携・協働
■ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	分娩期における看護	講義
2	分娩期における看護の実際	講義・演習
3	分娩時の異常と看護	講義
4	分娩期の看護過程	講義
5	産褥期の看護	講義
6	産褥期における看護の実際	講義・演習
7	産褥期の健康問題に対する看護	講義
8	産褥期の看護過程	講義
9	新生児の看護の実際	講義・演習
10	新生児の看護	講義
11	ハイリスク児の看護	演習
12	新生児の看護過程	講義
13	県立中央病院での母乳育児支援	講義
14	県立中央病院での周産期管理	講義
15	筆記試験・まとめ	

【5】 評価方法

科目評価は、筆記試験（80%）、授業・演習態度・提出物（20%）などで総合的に評価する。

【6】 教科書

森恵美：系統看護学講座　専門分野，母性看護学各論，第 14 版第 3 刷，　医学書院，2023

【7】 参考書

1)大平光子他編：母性看護学Ⅱ，マタニティサイクル，改訂第 3 版，南江堂，2022
2)小林康江他編：ナーシング・グラフィカ母性看護学②，母性看護の実践，第 2 版第 1 刷，MC メデイカ出版，2022

3)荒木奈緒他編：ナーシング・グラフィカ母性看護学③，母性看護技術，第 5 版第 1 刷，MC メディカ出版，2022
4)北川眞理子他編：看護実践のための根拠がわかる，母性看護技術，第 3 版第 1 刷，メデカルフレンド社，2022

【8】受講生へのメッセージ